

IV-2 北陸グリーンインフラ研究会の研究活動

菊地直樹

北陸グリーンインフラ研究会は、2018年度に開催した国際シンポジウム「都市景観をグリーンインフラから考える：金沢市における活用と協働」（主催：金沢大学地域政策研究センター、共催：金沢市、国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット、後援：環境省中部地方環境事務所、石川県、石川県立大学、グリーンインフラ研究会、認定NPO法人趣都金澤）を契機に、主に北陸地方の多分野の研究者と実践者が、北陸におけるグリーンインフラの更なる活用と導入のために調査、議論、実践活動を行うために設立したものである。石川県内の4大学の研究者で設立し、金沢市、企業、市民との協働を始めたところである。グリーンインフラとは「自然が持つ多様な機能を賢く利用することで、持続可能な社会と経済の発展に寄与するインフラや土地利用計画」（グリーンインフラ研究会（2017）『決定版！ グリーンインフラ』日経BP社）と定義されている。

主要メンバーは以下である。

| 氏名 | 所属 | 役職 | 専門分野 |
|------------------|--------------|------|--------------------|
| 上野 裕介 | 石川県立大学 | 准教授 | グリーンインフラ |
| 菊地 直樹 | 金沢大学 | 准教授 | 環境社会学 |
| 永井 三岐子 | 国連大学 OUIK | 事務局長 | 国際協力、SDGs |
| ファン・パストール・イヴァールス | | 研究員 | 建築設計、造園学、庭園、空家・空き地 |
| 坂村 圭 | 北陸先端科学技術 | 助教 | 都市計画、まちづくり |
| 郷右近 英臣 | 大学院大学 | 准教授 | 防災 |
| 佐無田 光 | 金沢大学 | 教授 | 地域経済学 |
| 丸谷 耕太 | | 助教 | コミュニティ・デザイン |
| 飯田 義彦 | | 研究員 | 造園学、景観生態学 |

北陸グリーンインフラ研究会は、「地域にある自然資源が、私たちの暮らしや文化、経済を支えるインフラであると捉えなおすと、私たちと自然のかかわり方は大きく変化する」という考えのもと、意識的に私たちと自然とのかかわり方を見つめなおし、自然と社会の双方を相乗的に発展していくことを目指した研究活動を進めている。

2018年度は、上記シンポジウムの成果をまとめた報告書と菊地直樹・上野裕介編『グリーンインフラによる都市景観の創造：金沢からの「問い」』公人の友社を刊行した。また、外部講師を招いた研究会「グリーンインフラを支えるコミュニティ」を開催した。

2019年度は、以下の活動を行った。

(1) 第10回グリーンインフラ研究会セミナーでの報告

テーマ：北陸グリーンインフラ研究会と金沢におけるGI社会実装に向けた取り組み

日時：2019年4月23日(火) 18:30-20:30

会場：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(MURC) 24階中会議室

定員：30名

参加費：無料

話題提供：菊地直樹(金沢大学地域政策研究センター)

ファン・パストール・イヴァールス(国連大学OUIK)

飯田義彦(金沢大学環日本海域環境研究センター)

コーディネーター：上野裕介(石川県立大学)

北陸グリーンインフラ研究会の主要メンバーが報告を行い、金沢市周辺で進めているグリーンインフラの実践事例を紹介するとともに、全国のグリーンインフラ研究者、実務者と意見交換を行った。

(2) 『金沢の庭園がつなぐ人と自然：持続可能なコモンズへの挑戦』の刊行

2019年7月、国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット編『金沢の庭園がつなぐ人と自然：持続可能なコモンズへの挑戦』が刊行された。北陸グリーンインフラ研究会の主要メンバーである国連大学OUIKのファン・パストール・イヴァールス研究員が自身の研究成果を踏まえ、金沢の庭園をグリーンインフラとして捉え直した上で、生物文化多様性の創造する新たなコモンズとして再生する方向性を示した内容となっている。

(3) 研究会の開催

テーマ：グリーンインフラの評価の視点-多様なプロセスにまたがる多面的機能の考え方

日時：2019年12月19日(木) 16:30-19:00

会場：北陸先端科学技術大学院大学金沢駅前オフィス ポルテ金沢9階

定員：30名

参加費：無料

話題提供：傳田正利(国立研究開発法人 土木研究所 主任研究員)

竹村紫苑(国立研究開発法人 中央水産研究所 研究員)

飯田義彦(金沢大学環日本海域環境研究センター)

コーディネーター：菊地直樹（金沢大学地域政策研究センター）

総括：上野裕介（石川県立大学）

土木研究所の傳田氏からは、全国の河川の改修と自然再生の事例を報告していただくとともに、河川のグリーンインフラ化に関する事例も報告していただいた。加えて河川のグリーンインフラ化に向けて重要な視点の提示も行っていただいた。中央水産研究所の竹村氏からは、「浜の道具箱」という沿岸漁業の資源管理評価ツールの考え方と実践例を報告していただき、自然の多機能性を重視するグリーンインフラの評価に向けた知見を提示していただいた。総合討論では、グリーンインフラの視点から北陸地域の都市内自然の多面的機能と地域内外との人々のつながりを適切に評価する方法論、都市内の自然の保全と再生を支える仕組み、制度、ガバナンスのあり方を議論した。

今後、北陸グリーンインフラ研究会として、グリーンインフラの視点から金沢の都市内の自然や既存インフラの機能の評価、それを評価できるツールの開発が課題であることを共有した。